

# 祝・第90回記念選抜 高等学校野球大会

明秀学園  
日立高校  
しらうめ会報



秋季県大会決勝\*明秀日立 vs 霞ヶ浦

明秀学園日立高校同窓会  
〒317-0064  
茨城県日立市神峰町3丁目2番26号  
電話 0294-21-6328  
<http://www.meishu-dosokai.com/>

## 第57回日立市内高校野球大会 優勝

1回戦	本校	7-6	日立北	(10/28)
準決勝	本校	8-1	多賀	(11/13)
決勝	本校	5-1	日立一	(11/13)

## 高校野球秋季関東大会

1回戦	本校	7-3	山梨学院	(10/24)
準々決勝	本校	7-5	健大高崎	(10/26)
準決勝	本校	7-4	慶應	(10/27)
決勝	本校	5-6	中央学院	(10/28)

## 県北から甲子園

野球部監督 金沢成春

平素より本校の教育活動におきまして多大なるご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、野球部は昨年の秋季茨城県大会において二連覇を果たし、関東大会では強豪校との戦いに苦しみながらも決勝戦に進出することができました。決勝戦では一進一退の攻防の末、あと一歩力及ばず優勝を逃してしまいました。

しかし、選抜甲子園出場条件を満たすことができ、念願の甲子園出場が現実のものとなったことを本当に嬉しく思っております。

私が本校野球部の監督に就任してから五年の月日が過ぎました。就任時は小野理事長より「震災以降、元気のない県北、日立に何とか元気になって欲しい、野球の力で皆さんに希望を持ってもらえるように頑張ってください。」という熱い思いを伝えられました。

私自身も子供達に「県北から甲子園」ということを言い続けてきました。しかし、三十年以上も県北から甲子園出場を果たせておりません。それを現実のものとするには本当に大変な事であると実感致しました。何度も負ける度に、もう甲子園には一生出られないかもしれないと思うこともありましたが、自分の野球に自信が持てず、思い悩む事もありました。そんな中、理事長をはじめ沢山の方々から励ましのお言葉を頂きました。

今一度、自分を見つめ直し現実を受け入れること。何よりも子供達を信じ切ろうと思うようになりまし。今まではどこかで自分の力で甲子園に連れて行くと言う気持ちが強くと子供達の力を十分に生かすことが出来ていなかったということに気付きました。私はただ子供達に勢いをつけてやる作業をすれば良い、勢いをつけるには「子供達を信じ切る事」と自分に言い聞かせて戦うようになりまし。

その結果、昨年の成績につながりました。ようやく県北高校野球の重い扉が開かれたのだと思います。

この春、夢の甲子園に出場します。甲子園においては子供達を信じ、自分たちの野球で県北・日立の皆様感動を与えられるような戦いをしたいと思っております。

そして、卒業生の皆様と共に明秀学園日立高校の校歌を甲子園という聖地で声高らかに歌えるようこれからも精進して参りたいと思っております。今後ともご支援ご協力程、宜しくお願ひ申し上げます。

## 大躍進の一年

同窓会長 神山 千恵子

本年度の「しらうめ」を皆様にお届けできることは、日頃より皆様から頂戴している会の活動への深いご理解と、温かいご支援のおかげと心より感謝いたします。本年度は母校の大躍進の一年でした。スポーツに進学に話題の尽きない我が母校ですが、なかでもサッカー部の全国高校サッカー選手権大会ベスト8と野球部の甲子園出場決定は地域へのインパクトも大きく、同窓生として誇らしい限りであります。そこで今回の「しらうめ」は同窓生一同が最も関心を寄せているであろうサッカー部と野球部を中心に編集することといたしました。

御覧ください。今回の選手権出場に際して、前回のようにならざるに皆様へお届けることとをいたしました。

それは野球部の関東大会準優勝の結果を受けて、選抜高校野球大会への出場が予想されていたので、1月26日に出場決定の連絡を受けて、今回の「しらうめ」には、野球部の甲子園出場への募金のお願いが同封されております。皆様趣意をご理解いただきご協力いただけるようお願いいたします。

今回はサッカー部と野球部を中心に編集いたしました。母校では、男女卓球、ゴルフ、ソフトテニス、陸上競技、など多くの運動部が全国大会に出場しています。また吹奏楽や書道、美術部なども盛んに活動しています。また学業においても、国立大学合格者が72名と過去最高を記録しています。文武両道にわたって躍進する母校を支援していきたい者です。皆様のこれまでに変わらぬご協力をお願いいたします。

サッカー部につきましては昨年末から今年の正月にかけてテレビ中継をご覧になった皆様も多いかと思えます。全国ベスト8という素晴らしい結果はもちろんですが、監督、コーチの皆さん、そして生徒たちのひたむきな姿には胸を打つものがありました。

くわしくは以下の記事を

## 誇りに思う母校を目指して

理事長 小野 勝久

時々、私は本校の90周年記念誌をめぐることにしています。それはこれからの明秀を考える上で最適の資料がふんだんに散りばめられているからです。その中でも特に全日制の戦前から3世代に亘る座談会と通信制の座談会が興味深く往時を偲びつつ時代背景を知る絶好の資料になっています。昭和14年、16年卒業の大先輩の方々は、学祖荒川まん先生から直接薫陶を受けた方々であり、それから以後男女共学になって入学した中原昭校長の平成22年卒業生までの体談であります。皆さんに共通しての発言は、関東地区でも知られるような明秀にしてほしいと知名度アップに期待するもの、今迄通り面倒見の良い学校であってほしいとの声などでした。そして、その成果として我が子を入れたくなるような母校であってほしいと言うものがありました。それが誇りに思う母校のイメージのようです。

野球部が関東大会で健闘する、サッカーも全国大会に出る、男女卓球、女子バスケなど全国大会にと、運動部の活躍は間違いなく知名度アップに大きく貢献してくれていると思います。しかし、これだけでは、卒業生にはまだまだ誇りに思っていないのでは

## 「温故知新」を踏まえ新たな一歩

学校長 中原 昭

本校の歩みは、東京で最先端の裁縫技術を学んだ荒川まん先生が日立の地に大正14年9月5日助川裁縫女学院を開校して産声を上げ、初代理事長・校長は荒川純一郎先生が就任。当時は「男尊女卑」の社会風潮が強くあつて、夫の純一郎先生が世間的な慣習から推挙され就任し、純一郎先生がお亡くなりになった昭和6年より荒川まん先生が校長・理事長に就任しました。創立当初から実質まん先生の理念「明るく、清く、凛々しく」を建学の精神と

して今日に引き継がれ、後世の先輩方が実質の創設者であった荒川まん先生を正式に創立者と決議したと語り継がれています。

昭和20年には、第二次世界大戦において日立の地が艦砲射撃で火の海になり校舎は全焼し、暫くの間、日立一高・日立二高と本校は同じ敷地(山手工場の付近)で共同学習を余儀なくされました。当時の学校関係者が日立市に援助を求めて奔走し、現在の神峰町に校舎を再建し女子教育に専念してきました。平成8年に地

ないでしょうか?それには、卒業後の進路とその評価が入学者数に結びつくからです。入学者数が安定してこそ「我が子」も入れたくなる誇りに思える母校なのでしよう。私は、この目標に向ってこれからも、ありつたけの情熱を学園発展に傾けたいと思つていきます。



域社会の要望もあり、男女共学制を導入し校名も「明秀学園日立高等学校」と改称しました。

お陰様で地域の皆様にご支えられ創立92年目を迎えることができました。2015年学園の総意で創立90周年の節目に、校舎をリニューアル、新制服制定などの改革により学び舎は様変わりしましたが、正門前の大銀杏、白梅、「まん先生」銅像、二宮金次郎像など往時を偲ぶような配慮もしています。私学教育の王道である「不易と流行」を見定めて学校運営を推進して参り、近年は、進路実績でも、スポーツ・文化の実績でも先輩たちの実績を大きく超えています。東京工業大学を始め国公立大学合格者は72名、慶応大学を含めMARCHに44名の合格、初の選抜高校野球大会出場、全国高校サッカー選手権大会でベスト8、また、在学中に技能を磨きプロ野球選手になった者、女子プロゴルファーに一発で試験に合格した者など多種多様な分野で活躍する人材が育ち、年々地域の評価は高まっています。

現在、本学は創立100

周年に未来へジャンプするためのホップ・ステップに相当する行動計画の策定を進めています。建学の精神に基づく経営と教育の柔軟さが私学の強みであり、教育への思いを直截に実現できる点にこそ私学の存在意義があります。これからも挑戦と改革、創造をたゆまず重ねて行き、来る創立100周年には燦然と光を放ち、永遠に輝く明秀を実現することを念願しています。卒業生の皆様には一層のご理解とご支援を頂きたく存じます。お近くに來た時には、是非、気軽にお立ち寄りください。



## 全国高校サッカー選手権大会を終えて

2018年1月8日、前橋育英高校（群馬県）が全国4000校の頂点に立ち、第96回全国高校サッカー選手権大会は幕を閉じた。

昨年11月、水戸啓明高校との決勝戦に勝利し、2度目の全国高校サッカー選手権大会出場を決めた。今年度、県内35試合の公式戦を戦い、27勝5分3敗である。例年に比べると敗戦数は少ないが、県を代表する高校との対戦は、決して簡単なものではなかった。

今大会の目標は、「ベスト8」であった。その目標を達成するためには、初出場の高知西高校（高知県）との初戦を突破し、2回戦、3回戦で全国の強豪校が名を連ねるシード校に勝利する必要がある。その道のは非常に困難であるが、本気でその目標を達成するために準備をしてきたのである。

高知西高校との初戦、試合のポイントは大きく2点である。初出場校の勢い、自分達の力を普段通り出せるかである。それゆえに、前半4分で先制できたことがこの試合の全てであった。その後、

落ちていてゲームを進め、追加点を奪い3-0で初戦を突破した。

2回戦の相手は名門、星稜高校（石川県）であった。このゲームも初戦同様立ち上がり先に先制点を奪い、その後相手の猛攻を耐え凌ぎ、ベスト16へと駒を進めることができた。

そして今大会のターニングポイントである3回戦。対戦相手は大阪桐蔭高校（大阪府）であり、非常に苦しいゲームとなることが予想された。この日は風が強く、本校にとっては追い風となることが考えられた。風下に立った前半を0-0で折り返し、風上に立つ後半から攻勢を強くしていた。

く見通しであった。しかし、後半の立ち上がり、先制点を奪われる。その後も劣勢が続く中、61分に同点に成功し、試合を振り出しに戻した。そのまま試合は終了し、PK戦へと突入。会場が固唾を飲んで見守る中、本校は5人が全員成功。一方の相手は1人の選手が失敗し、勝利した。

ベスト8という目標が達成できたのは、選手の頑張り、それ以上にスタンドで応援してくださった全ての方々、また保護者の皆様、学校関係者・PTA・同窓会・地域の皆様のご協力、ご支援の賜物です。全国の頂点を目指していく、サッカー部の挑戦を今後ともよろしく願っています。

## 第96回全国高校サッカー選手権大会について

サッカー部監督 萬場 努

私達、明秀日立サッカー部は「挑戦」というスローガンを掲げています。今大会での目標は「全国ベスト8」、「感動で恩返し」ということでした。

目標とした「全国ベスト8」へは、「初戦突破」と「強豪校を破る」という課題を

乗り越えなければなりません。結果目標を達成するには2回戦で名門、星稜高校（石川県）、3回戦では優勝候補の大阪桐蔭高校（大阪府）に勝利しなければなりません。この2校に勝利することは、日本一が間近になり、現実

味を帯びる程の高い壁でした。

全国大会出場を決めた時点の実力から考えれば目標を達成するのは厳しい状況でした。しかし、全国大会までの一ヶ月間の練習内容や取り組み、更に対外試合を通して組織力の成熟と試合での勝負強さを上積みすることができれば、目標を達成できるという自信もありました。勢いに乗れることができれば、その上の景色を見られるとも考えていました。

強豪校との実際の試合では、相手の技術力の前に何度も攻め込まれ、苦しい展開になりました。しかし、「一戦必勝」にこだわり、選手達の個々の粘り強さや積み上げてきた守備組織で応戦し、なんとか勝利を重ね目標を達成することがで



きました。

もう1つの目標として、私達はこの大会で今まで応援していただいた方々に試合を通して「感動で恩返し」をしたいと考えていました。それは、どんな困難な状況に置かれても諦めず必死にボールを追いかけて、気持ちで体を動かすような「姿勢」で表現するということです。私達はその「姿勢での感動」は毎試合、ユニフォームを着て試合する時（応援者も含む全部員）は応援者に届けたいという思いで戦うことを目指してきました。猛攻を受け必死にシュートブロックに向かう強い精神、相手にリードされ苦しい状況でもあきらめずゴールへ向かう執念、試合に出ていなくてもチームの勝利を目指し一生懸命応援していた部員の「姿勢」はそれに相応しいものでした。プレーだけでなく、全国の舞台での試合に臨むチーム力として自信を持って送り出せるチームであり、それを私自身誇りに思います。

最後に、年末年始の多忙な時期にたくさんのご声援を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。これ

からも明秀日立サッカー部は自分自身の可能性に挑戦し、サッカーを通して日立・県北・茨城の地域社会の発展に貢献できる人材を育成

### 挑戦し続けた3年間

サッカー部主将 深見 凜

したいけるよう精進していきたいと考えております。今後とも応援よろしくお願

12月30日から行われた第96回全国高校サッカー選手権大会に出場しました。たくさんの方の応援並びにご支

「今年のチームは精神的に幼い」と言われてスタートした1年間でした。最初

はそんなことを言われながらも結果が出て新人戦や関東予選で優勝することができました。それが結果に表

れ始めたのがその後の関東大会、インターハイ予選、IFAリーグ1部でした。

なかなか思うような結果が出せなくなり、言われたことに気づかされました。

そこで、勝つためにはサッカーの成長は勿論のこと、精神的な面も含め、人としても成長することと思

掃除をしました。

またサッカーでは、技術の向上だけではなく明秀日立サッカー部の特徴である

フイジカル面でも向上するために走り込みやウエイト

トレーニングをしました。厳しく辛い練習もありまし

たが、それを全員で乗り越え精神的にも大きく成長で

きたと思います。それが全国の舞台でも相手より走っ

て、粘り強い守備やあきらめない強い気持ちが発揮さ



れ目標であった全国ベスト8を達成できたと思います。

選手権という夢の舞台でこの仲間とサッカーができたことは人生の財産になりました。これからもサッカー部のご支援並びに応援を宜しくお願致します。

### 編集後記

軽暖の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より、明秀学園日立高等学校同窓会「しづうめ」会にご協力とご理解を頂きましてありがとうございます。

ご協力いただきました、野球部関係者、サッカー部関係者並びに学園関係者の皆様には心より御礼申し上げます。

さて、今回は野球部とサッカー部の嬉しい活躍を同窓生の皆様にお知らせでき編集を担当している人間としても楽しく作成させて頂きました。

私は現在3年生の担任もしておりますが、クラスの生徒がサッカー部で活躍している姿を見て胸に込め上げてくるものが沢山ありました。

野球部も同様で金沢監督を始めとする関係する皆様のご指導、サッカー部でも萬場先生始めコーチ陣、そして保護者の皆様の支えを目的の当たりにも何度も感動いたしました。会員の皆様には今後定期的な母校の活躍をお知らせしたいと思いますので宜しくお願致します。

後藤 朋幸